

【投信調査室コラム】

日本版ISAの道 その40

新ファンドから見えるNISAの志向：分配回数年1回、手数料無料の増加傾向、グローバル債・国内株・アセットアロケーション柔軟型が人気を集める可能性

※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

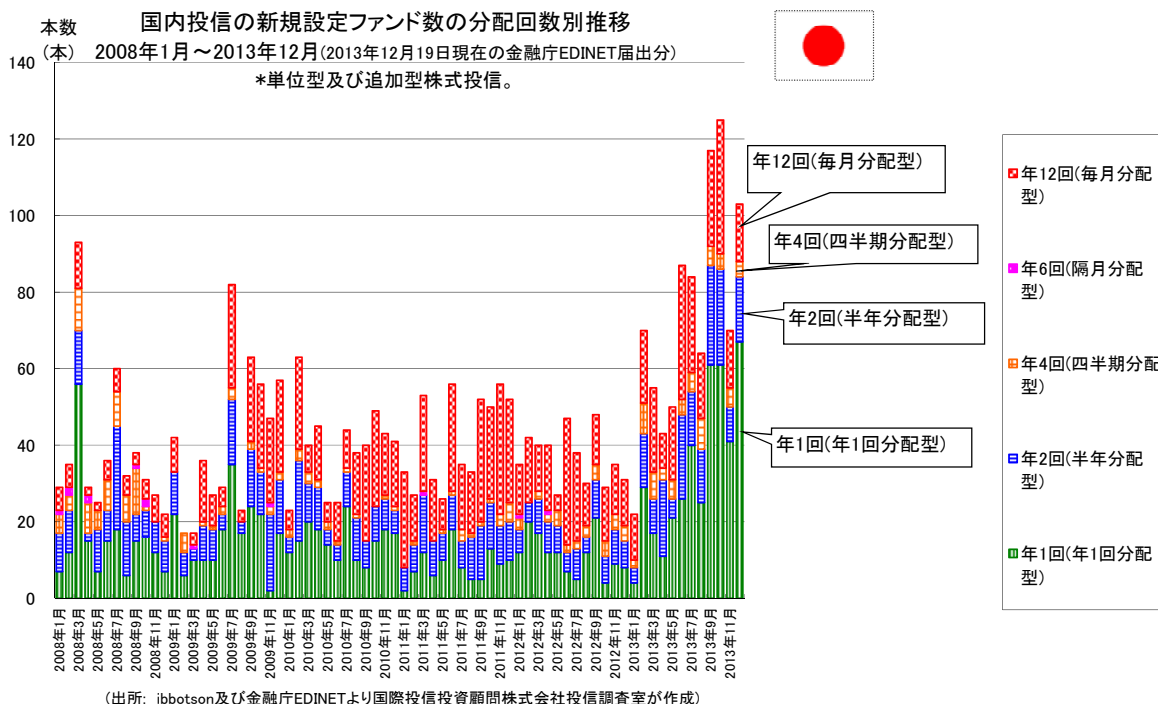
注文(申込)段階では既に始まっている NISA!

2014年1月からの少額投資非課税制度(日本版ISA=NISA)まで、後わずか。既に2013年10月1日からNISAの申請は始まっており、それは2013年10月1日だけで357万5738件(重複申請10万4千件)あった。早く申請をした投資家には既に「非課税適用確認書」も届いており、あとはNISAで何に投資するかとなっている。ここで注意だが、NISAは受渡日ベースで、約定は1月を待つ必要はないことだ。上場株式は約定日から起算して4営業日目(T+3)が受渡日なので、12月26日(木)約定分が2014年1月6日(月)受渡となり、NISAの対象となる。上場投信(ETF)や不動産投資信託(J-REIT)も同じだ。

一般的な投資信託は、約定の前に注文(申込)があるので、受渡日が少し遅くなる。つまりNISAの対象となるのが早くなる。例えば、国内運用ファンドの場合、注文(申込)日=約定日と言う場合もあるが、注文(申込)日の翌日が約定日となる場合も多く、その場合、12月25日(水)注文分が2014年1月6日(月)受渡となり、NISAの対象となるのである。注文(申込)日から起算すると5営業日目である。海外運用ファンドの場合であると、さらに日数がかかり、注文(申込)日から起算して6営業日以降が受渡日となることもある。つまり、2013年12月20日(金)の注文(申込)で既にNISA対象となっている投資信託もあるということである。このあたり、しっかり受渡日を確認しておきたいものである。

新ファンドから見える NISA の志向: 分配回数年1回がバブル後最高の多さ

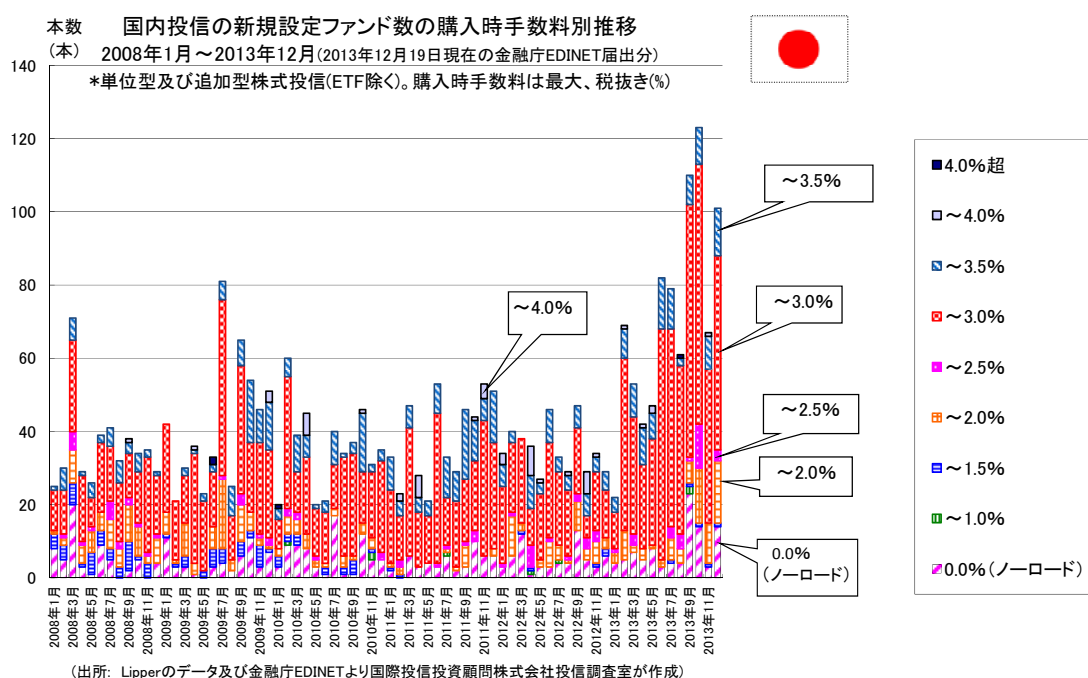
注文(申込)段階では既に始まっているNISAであるが、まだNISA口座に資金は入っていないし、その志向はよくわからない。ただ、新規設定ファンドを見ると、NISAの志向の参考になる情報がある。2013年12月19日現在で12月の新ファンド数は103本と、バブル崩壊後最高の125本(2013年10月)からは減っているが、十分多いものだった(*2013年9月117本、1994年2月120本)。年1回(年1回分配型)が67本と年1回だけ見ると最高である(*2013年9月・10月61本)。



年1回は必ずしもNISA向けではないものの、NISA向けが多い。理由は、NISAでは分配金の再投資が「購入」に該当し非課税枠に加算されるため、もし非課税枠(年100万円)を使い切っていると、その年については再投資を非課税に出来なくなり、さらに、分配金が投信の元本払戻金(特別分配金)の場合、もともと元本払戻金(特別分配金)は非課税であるため、せつかくの非課税枠を「無駄に使ってしまう」とこととなる。そのために、無(低)分配が志向され、年1回などが増えていくと予想されていた(2013年4月15日付日本版ISAの道その8~URLは後述の参考ホームページ)。

新ファンドから見える NISA の志向: 手数料無料の増加傾向

新規設定ファンドの手数料を見る。2013年12月18日(水)付日本経済新聞朝刊には「投資信託を購入する際は一般的に、基準価格に一定の率を掛けた販売手数料がかかる。だが、少額投資非課税制度(日本版ISA=NISA)では、販売手数料が無料の投信も相次ぎ登場している。」とあったがどうだろう? 実際、集計してみたところ、2013年12月19日現在で販売手数料が無料の投信(ノーロード)は2013年9月に急増していることがわかる。ただ、最大手数料でも無料というファンドは多くもなく、「2.5%超 3.0%以下」が圧倒的に多いようではある。だが、これは最大の手数料であり、無料にする場合もある。

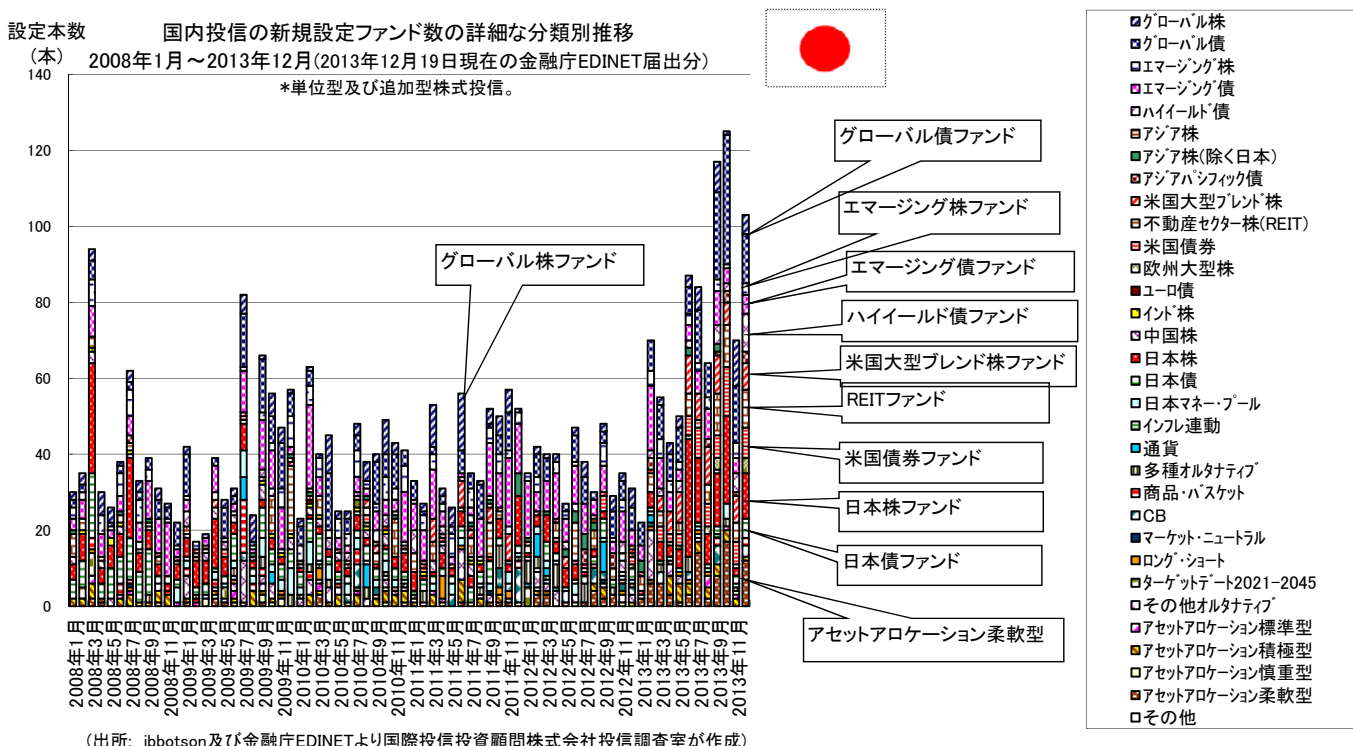
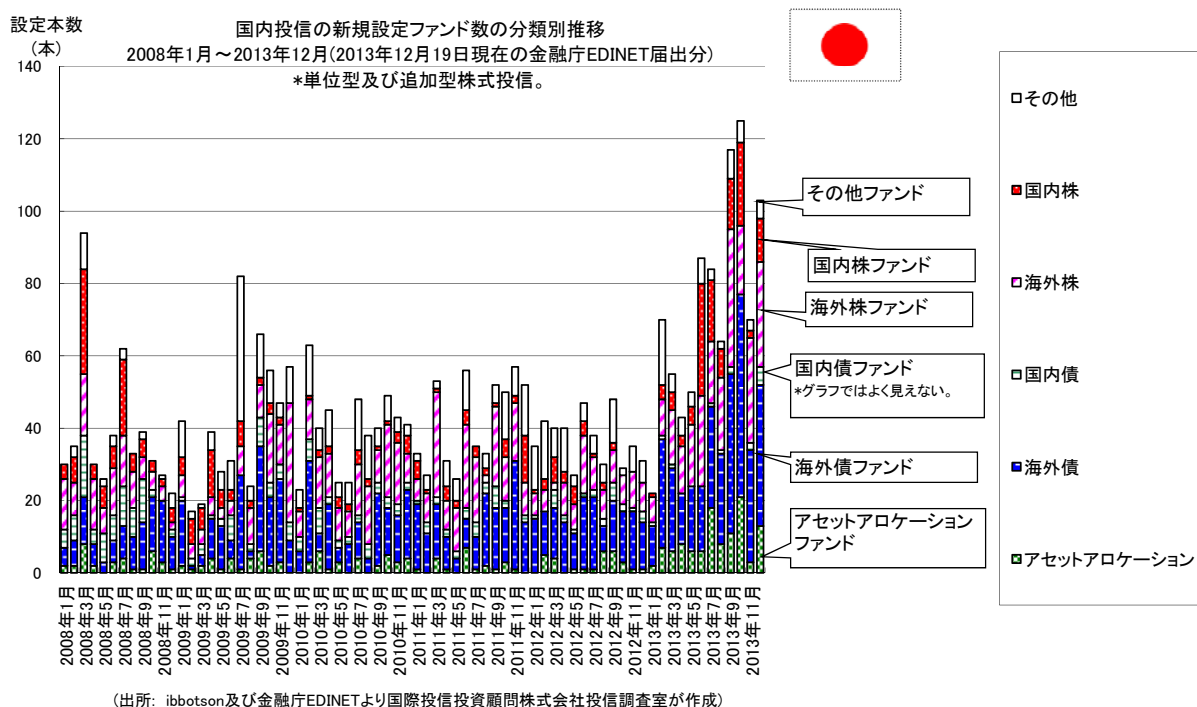


新ファンドから見える NISA の志向: グローバル債・国内株・アセットアロケーション柔軟型が人気を集める可能性

そして新規設定ファンドの分類を見る。2013年12月8日付日経ヴェリタスには「2014年1月から始まる少額投資非課税制度(日本版ISA=NISA)についても投資家の意識を調べた。NISAで保有したい金融商品については、国内株式とする回答が現物株と投資信託の合計で66%に達した。日本株の値上がり期待が強いことがうかがえる。」とあり、日本のモーニングスターのホームページには2013年12月5日に「NISA口座向きの資産として投資を検討したいのが、2013年に世界的に投資家の人気を集めた株式ファンドだ。最近でもNYダウが史上最高値を連日更新するなど先進国の株式市場は騰勢を強めており、注目に値する。」(URLは後述の参考ホームページ)とあったがどうだろう? 実際、集計してみたところ、次頁上段に示される通り、2013年12月の多い順に、海外債(39本)、海外株(29本)、国内株(12本)、アセットアロケーション(13本)となっている。バブル後最多となった2013年10月の多い順では、海外債(56本)、国内株(23本)、アセットアロケーション(21本)、海外株(19本)である。

以上をさらに、詳細にみたのが、次頁下段であるが、2013年12月の多い順に、グローバル債(13本)、国内株(12本)、アセットアロケーション柔軟型(12本)、不動産セクター株(REIT)ファンド(10本)、ハイイールド債(10本)。バブル後最多となった2013年10月の多い順に、グローバル債(34本)、国内株(23本)、アセットアロケーション柔軟型(17本)、米国債券(13本)、不動産セクター株(REIT)ファンド(11本)となっている。

もちろん新規設定ファンドには NISA 向けではないファンドも含まれるし、既存のファンドで対応する分類もあるが、以上からはグローバル債、国内株、アセットアロケーション柔軟型が NISA で人気を集める可能性があることを示していると言えそうだ。



【参考ホームページ】

2013年4月15日付日本版ISAの道 その8「日本版ISAと無(低)分配志向と日本株ファンド～軽減税率打ち切り前に検討すること、無分配投信のこと～」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/130415.pdf>」、日本のモーニングスターのホームページ…「<http://www.morningstar.co.jp/fund/analyst/2013/4q/MFA120131205.html>」。

以上

(投信調査室 松尾、窪田)

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
 - 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
 - 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
 - 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。
- また、国際投信投資顧問が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。